

平成21年度

# 病虫害発生予察特殊報(第1号)

平成21年8月13日  
神奈川県農業技術センター所長

病虫害名：プラムポックスウイルス\*による病害  
病原ウイルス：plum pox virus (PPV)

作物名：ウメ

\*このウイルスの正式和名はまだ決定されていませんが、正式英名である「plum pox virus」の音訳である「プラムポックスウイルス」を用いました。

## 1 発生経過

- 平成21年6月30日、東京大学より小田原フラワーガーデン内に植栽されているウメ樹で、プラムポックスウイルス(PPV)の感染を確認したとの連絡があった。
- 7月2日、農業技術センター及び農林水産省横浜植物防疫所職員が現地調査を行ったところ、感染が疑われる樹を認め、検定のためのサンプルを採取した。
- 横浜植物防疫所及び農業技術センターにおいて、RT-PCR法等により検定を行ったところ、観賞用ウメ樹からPPVの感染を確認した。
- ウメでの感染は、東京都について国内2例目の確認である。

## 2 病徴及び病原ウイルスの性質

- 本ウイルスは、Potyvirus属のひも状ウイルスで、モモ、スモモ等の核果類に重大な被害を与える病原ウイルスであり、1915年ブルガリアで発見されて以来、欧州、アフリカ、アジアの一部、北米及び南米の一部で発生が確認されている。
- 宿主植物：アンズ、スモモ、セイヨウスモモ、モモ、ネクタリン、アーモンド等の核果類植物であり、セイヨウタンポポ、ナズナ等の草本植物からも報告されている。
- 伝搬方法：本ウイルスは20種類以上のアブラムシ類、特にモモアカアブラムシによって媒介される。アブラムシの吸汁により獲得されたウイルスは短時間のうちに活性が失われるため、媒介は非永続性である。また、接ぎ木や感染苗木等の人為的な移動によっても伝搬される。種子伝染、花粉伝染は知られておらず、生果実からの自然感染は知られていない。
- 本県で確認された病徴は、葉の退緑斑紋、退緑斑点、黄色輪紋であり、品種により症状が異なっていた。海外の報告によると、モモ等他の核果類の果実では果面に輪紋や斑紋が生じ、商品価値の低下や、早期落果による減収があるとされている。また、東京都のウメの感染例では、これまでのところ、果実での顕著な被害は確認されておらず、葉の輪紋や花卉の薄赤色の斑入り症状が確認されている。

## 3 防除対策

- 本ウイルスを媒介するアブラムシ類の防除徹底。
- アブラムシの発生源となりうる周辺雑草の除去の徹底。
- 感染樹の除去。
- 無病健全な苗木、穂木の導入。

## 4 防除薬剤

ウメでアブラムシ類に適用のある農薬（平成21年度病害虫雑草防除指導指針より）

系統*	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
A	スミチオン乳剤	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
A	マラソン乳剤	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	5回以内
B	アディオン水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
B	マブリック水和剤20	4,000倍	収穫21日前まで	2回以内
C	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000倍	収穫21日前まで	2回以内
C	アクタラ顆粒水溶剤	2,000～3,000倍	収穫7日前まで	2回以内
C	アルバリン 又はスタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
C	バリアード顆粒水和剤	4,000倍	収穫前日まで	2回以内
D	ウララDF	2,000～4,000倍	収穫7日前まで	2回以内
E	チェス顆粒水和剤	5,000倍	収穫21日前まで	2回以内

\*系統：農薬の作用機作から便宜的に分類したもの。  
農薬に関する情報は平成21年8月5日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。  
使用に当たっては最新の登録内容を確認してください。

## 5 ウメの葉の症状



神奈川県農業技術センター  
病害虫防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

テレホンサービス0463-58-6612

<http://www.agri-kanagawa.jp/nosoken/boujo.asp>